

【神奈川】

つないだ絆で総合4連覇 平塚工科高 ソーラーカーレースで栄冠

2014年9月3日

8月に三重県の鈴鹿サーキットで行われたソーラーカーの4時間耐久レースを制した県立平塚工科高校のメンバーが平塚市役所を訪れ、落合克宏市長に優勝報告を行った。企業や大学チームに交じって総合4連覇、高校・高等専門学校クラスで5連覇を達成。悪天候の難しい条件での栄冠に、顧問の小沢健人(たけと)教諭(58)は「代々築いた技術の積み重ね。部員が一丸となった結果」と語った。(吉岡潤)

太陽光パネルとバッテリーを搭載した車を運転し、四時間で一周約五・八キロのコースをいかに多く周回できるかを競う大会。高校・高専は十七チーム、一般は十八チームが出場し、レースは八月二日に行われた。同高は四十三周を重ね、オリンパスチームの四十二周を抑え、計三十五チームの頂点に立った。

当日は小雨が舞い、太陽光での充電が当てにならない、初めて経験する状況。前半のドライバーを務めた阿曾勇志(たけし)君(三年)は「ピットの指示で、他車と駆け引きしながらペースを考えた」と言い、後半担当の関優斗君(同)は「バッテリー残量との勝負。坂をどう登るか苦労した」と振り返った。

部長の石塚航士(こうじ)君(同)は「大切なのは部員同士のコミュニケーション。それをチーム力として出せた」と説明。落合市長は「誇りに思う」とたたえた。



平塚工科高のメンバー。車は商工会議所を窓口にした寄付で整備した(小沢教諭提供)